

# めぐみイエス・キリスト教会

2022年7月31日(日)第五主日礼拝  
週報「通算第619号」



## 2022年標題聖句

### 第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌268「御国の心地す」	p. 422
【交読文】	No.21 詩篇第62篇(抜粋)	p. 895
【賛美Ⅱ】	新聖歌340「救い主イエスと」	p. 540
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.15「野に咲く花も空の鳥も」	
【聖書朗読】	ヨハネの福音書16章23節～24節(新約p. 219)	
【礼拝説教】	《主イエスの御名》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

### ※本日の聖書箇所(ヨハネの福音書16章23節～24節)

16:23 「その日には、あなたがたは私に何も尋ねません。まことに、まことに、あなたがたに言います。私の名によって父に求めるものは何でも、父はあなたがたに与えてくださいます。

16:24 今まで、あなたがたは、私の名によって何も求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けます。あなたがたの喜びが満ちあふれるようになるためです。」

## ●ポイント1.「神様に祈り求めること」は？

※詩篇81章10節「ダビデが任命した楽人アサフによる」(旧約p.1020)

81:10 わたしはあなたの神【主】である。わたしがあなたをエジプトの地から連れ上った。あなたの口を大きく開けよ。わたしがそれを満たそう。

## ●ポイント2.「私たちに与えられている主の御名」とは？

※使徒の働き4章7節～12節「シモン・ペテロの弁明から」(新約p.238)

4:7 彼らは二人を真ん中に立たせて、「おまえたちは何の権威によって、また、だれの名によってあのようなことをしたのか」と尋問した。

4:8 そのとき、ペテロは聖霊に満たされて、彼らに言った。「民の指導者たち、ならびに長老の方々。

4:9 私たちが今日取り調べを受けているのが、一人の病人に対する良いわざと、その人が何によって癒やされたのかということのためなら、

4:10 皆さんも、またイスラエルのすべての民も、知っていただきたい。この人が治ってあなたがたの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけ、神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの名によることです。

4:11 『あなたがた家を建てる者たちに捨てられた石、それが要の石となった』というのは、この方のことです。

4:12 この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。」

## ●ポイント3. 私たちの思いを遙かに超えて

※ルカの福音書1章37節「御使いガブリエルの言葉から」(新約p.108)

1:37「神にとって不可能なことは何もありません。」

## ◎先週の礼拝メッセージの概要【コリント伝道の終わり】

《主イエスは、不品行の町コリントに教会を建て上げるべく、様々な付箋を用意していました。その為にはローマ皇帝をも用いられ、「ユダヤ人退去命令」を出させ、プリスキラとアキラ夫婦は、パウロが訪れる一年前に、すでにコリントに派遣されていたのです。最初に会堂管理人のクレスポの家族が救われます。そして、一年六か月後には、クレスポの後継者であった会堂管理人のソステネが救われるのです。

コリントは、ローマ帝国アカヤ州の首都にあたり、地方総督が常駐していました。皇帝ネロから信頼されていたローマの高官ガリオは、紀元51年にコリントに赴任して来ます。新しい総督が着任した絶好の機会に、日頃ねたみに燃えていたユダヤ人たちが、パウロを裁判にかけようとして捕らえ法廷に引きずり込んだのです。彼らは訴えます。「この人は、律法に反するやり方で、人々をそそのかしています」「ユダヤ人の諸君。不正な行為や悪質な犯罪のことであれば、私は当然訴えを取り上げるが、言葉や名称や律法に関する問題であれば、自分たちで解決するがよい。私はそのようなことの裁判官になりたくはない」と、ガリオは突っぱねます。よって、仕方なく彼らはパウロを懲らしめようとしたが、ソステネが、何かの拍子でパウロを逃がしてしまったと思われるのです。これは、パウロに対する主の約束であり奇跡です。そこでユダヤ人たちは、怒りの矛先をソステネにぶつけ、彼を捕らえて打ちたたきます。第Iコリントには、差出人として、パウロと共にソステネの名が書かれています。この事件の後に、ソステネは回心し、パウロの同労者になるのです。そして、ついにパウロ一行がコリントを立ち去る時がやって来ます。彼らは、プリスキラとアキラ夫婦を伴って、エペソに渡る為に、ケンクレアの港から出港します。その時、ソステネと彼の家族も一緒にあったに違いありません。》

## ◎お知らせ

※8月7日(日)の第一主日礼拝は、通常通り午前10時から行ないます。次回の特別メッセージは、10月30日(日)となります。